

人は楽しむために生まれてきた

日本国民への提言

56



〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072 (991) 3398
FAX072 (991) 4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

たまごビル
院長 石垣 邦彦

たまご理論で病気のしくみを考える

お釈迦さんの最期の言葉「怠るな」の本質を導き出し、
これからの日本、人類のあるべき姿を提案する

たまご保育園 たまご学童教室

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する

前回 2月15日号では、

(1) 藤原正彦氏の「日本国民に告ぐ」で

「多くの困難が噴出してきているというのは、それら全てを貫く何か一つの原理が時代や状況にそぐわなくなっているということを意味する。したがってこの原理を要するところ、諸困難を「怠り」に解決する、というのが最も効果的なはかりか容易でもあるのだ」

(2) 雑誌「致知」に冨田三氏の「西郷隆盛」中で、坂本龍馬はこう述べています。

「思い切った串を抜き団子を横一列に並べて、一度に食えるような対応策をとらなければ間に合わない」と、

(1) (2) それぞれを紹介し、一つの原理で多様な問題を串刺しにして同時に解決する必要があることを述べ、それらの解決策を述べました。

【大阪万博1970年と2025年の違い】

前回1970年の大阪万博については、わたしもなかなか思い出がありません。日本の国民のほとんどが、こぞ万博を見に行きたかったのです。日本の高度成長期の最上りの時でもありました。

月面着陸船アポロが持ち帰った月の石が展示されたり、科学技術でなんでも解決されてゆくのだという未来に対する大きな期待と熱意がありました。

しかしながら、来る2025年度大阪万博については、そんな甘い期待を人類は

持てるわけがありません。確かに科学技術の発達により多くの恩恵を受けていますが、その負の面も大きくクローズアップされてきたのです。

○例えはわれわれ人類が、長い間求めてきた長生きです。科学技術の発達により、豊かな生活・上下水道をはじめとした衛生設備・冷暖房の完備など、先進国の人々が生きてゆけるような快適な環境がととのったために長生きが達成されるようになりました。しかし、ものごとによって治まりません。

長寿という言葉があります。端的に言えば長生きは、幸せだ、ということです。

しかし、長生きが達成されるにつれて、介護が大きな問題になってきました。認知症・寝たきりです。めでたいうえに地獄です。介護される方も介護する家族も大変です。そして、ようやく科学技術の発展で人類の

日本人は、一億総既得権者

日本人一人ひとりが、「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態Ⅱ「上腹部がやわらかい」状態を活用して、元気になる(表1)、日本を再生しよう

○例え
ば、その豊かな生活を支えるエネルギーそのものが、二酸化炭素を大量に排出し、われわれ人類が生きていく基礎である地球環境に劇的な変化をもたらしているのです。人類が生きていく土壌である地球環境そのものが破壊をきたしつつあるのです。人類の危機です。科学技術そのものを安易に、手放しに信じ、バラ色の夢を見る時代ではなくなってきたのです。

ここに、約50年前の前回の大阪万博と今回の万博との違いが、あります。

大阪大学教授 菅目卓生氏は

「現代科学の発達には、命を守ると同時に、命に重大な危険をもたらす可能性もあります。今、必要なのは、科学技術や経済活動の目的を問う英知です」と述べています。

現在に生きるわれわれにとっては、AIをはじめとする科学技術をいかに、人類の継続

的な幸せに方向付けするか、ということが必要な時代になってきているのです。

日本には、2025年度54兆円の医療費・社会保障費は、現在で11兆円・国家財政1000兆円をこえる赤字・寝たきり認知症の予防・養育など多くの問題があります。

また、世界的な自然環境破壊・食料危機・地域紛争などの地球規模的な問題があります。これらの切実な多様な問題を、多数の団子を串刺しにして「怠り」に食われるような確かな原理が必要とされています。

その確かな原理を導き出すにはどうすればいいか。そのためにわれわれ人類はなにものか、どういう存在であるかを、明確にする必要があります。

ここでいう「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態Ⅱ「上腹部がやわらかい」状態は、1000年や2000年で変わるということはお釈迦さんや6000年前の人間です。しかし今のわれわれの「からだ」の「しくみ」と「はたらき」とはなんら変わらないこと。人類の工夫の産物である科学技術や考え方や哲学・思想・宗教・文学・教育・政治・法律・社会制度などは「からだ」の周りの環境や抹消の「はたらき」に変化を及ぼすが「からだ」の「しくみ」を変えるものではないこと。科学のそもそものほしめは、自然という全体の取り出せる部分のみを取り出し、公式化し発達してきたものです。そのため、宇宙という全体・小宇宙とも称される人体という全体を理解し、完全に対応できるものではないこと。

・科学そのものに、本質的な限度があること。そのため、近代医学そのものにも限度があること。

あること
「わたしは発見した「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態の特徴を」4000年の「いのち」のつながりの結果である「からだ」は、物語。

わたしは人類は、今まで現代医学・東洋医学などを含め「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらかない」状態の結果としての不定愁訴や病を診てきました。

しかし、これからは特に予防が必要です。そのためには今までのように「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらかない」状態を部分的に診て(図2)いたのでは、とても予防はできません。

ここで発想の転換が必要です。全く逆に「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態を診る必要があるのです。

大阪万博に基本理念を提案する

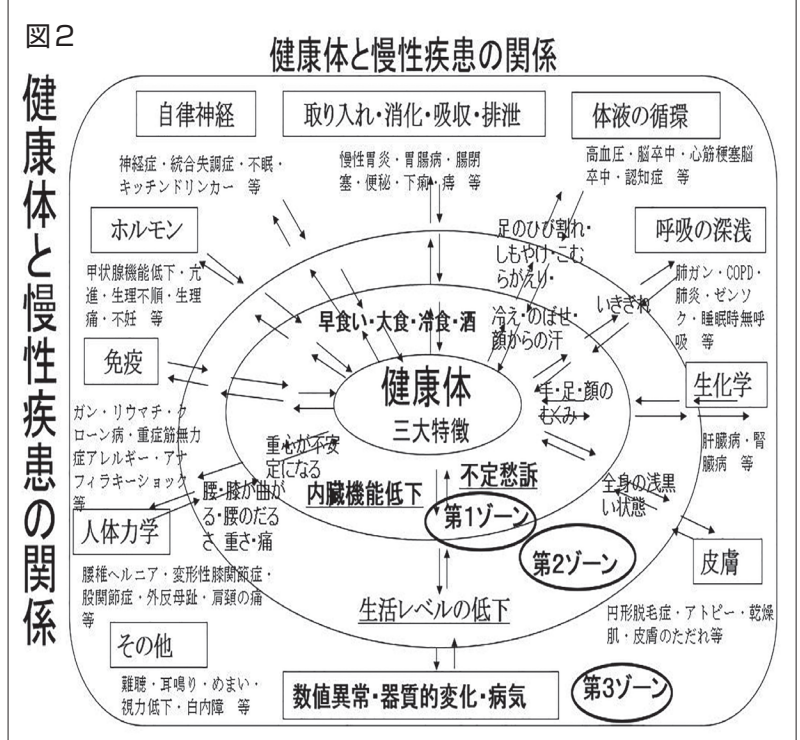
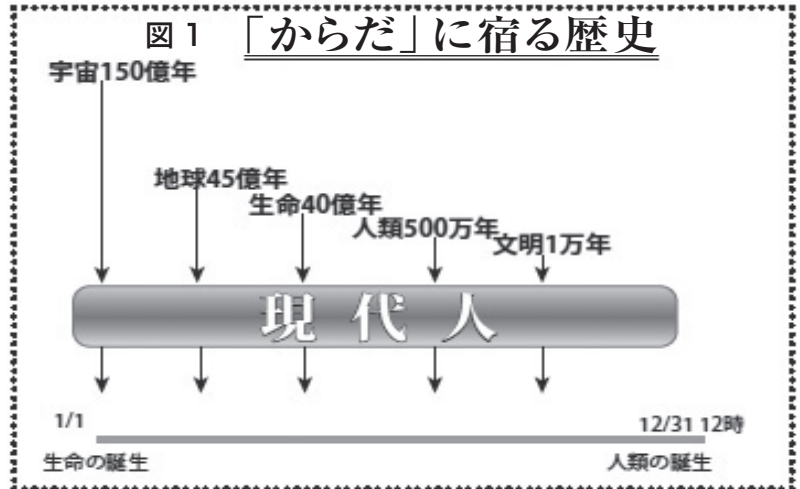


表1 人は楽しむために生まれてきた！
～人間の生死は「上腹部のやわらかさ」が指標となる～

ROB治療で「上腹部のやわらかさ」がやわらかくなると…
「入り出」がととのい、深く長くこころよい呼吸ができる

・呼吸が深くない
・循環が良くない
・人体力学が安定し
・自律神経がととのい
・内臓全般の動きが活発になる

●生きる力がつく ⇒ 生き方が身につく
●総合的免疫力がつく ⇒ 予防ができる
●自然の治癒力がつく ⇒ 治療が的確に
●自然なバランス力がつく ⇒ 自然なケア
●自然な死への流れができる ⇒ 穏やかな死

■人間の体の自然な「しくみ」が生かされ
ROB 医療で人生が統合される！！

【たまご保育園児の心得】

①正しい生活習慣を身につけて元気な子どもになります。
②人・物・事に、全ての環境に感謝できる子どもになります。
③自らの考えを持ち、白を表現できる子どもになります。

たまご保育園の園児である私たちは自らの「からだ」と「いのち」をどう生かすのか。

家庭・地域・日本・地球環境に貢献していきます。

この大きな目標をもって日々の生活に精進していきます。

詳しい活動内容はたまご保育園(072-9333-1644)たまご学童教室(072-9333-3339)にお問い合わせてください。

長年の臨床研究から「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態を発見しました。その時、「からだ」にはある特徴があらわれます。

それが「上腹部がやわらかい」状態です。その発見を長年にわたり追及してゆくと、表1の関係のあることが分かったのです。

つまり、元気で生きる・病気の予防ができる・的確な医療とケアができる・老化の波にうまく乗り・穏やかな死にいたることができることが分かってきたのです。

人生のいろいろな問題を串刺しにして、団子を食べるように一挙に解決できるのです。

【大阪万博「いのち輝く未来社会のデザイン」に提案する】

大阪万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」の基本理念を「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態Ⅱ「上腹部がやわらかい」状態におくことを提案します。

なぜなら「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態Ⅱ「上腹部がやわらかい」状態では、その人の呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動きがととのうため、「元気で生きられ・病気の予防ができ・的確な治療とケアとなり・穏やかな老化と死に至る」ことができるからです。

「からだ」の「しくみ」は全人類共通です。そのうえで「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態を、人類の未来社会の基盤にすれば、人類の継続的な繁栄に供することになるからです。

【たまご保育園・たまご学童教室の活動と目的】

毎回、お話しさせていただいているように、これからの日本をいかにどうにも運が元気で過ごせるようにたまご保育園・たまご学童教室を創設しました。

2月27日(木)に安倍首相は新型コロナウイルス肺炎の感染を防ぐために、小・中・高等の休学を要請しました。そのことに応じ、学童保育で観てもらえない方が続出することになるので、たまごビルでは今まで行っていた学童教室に加え、新たな行き場のない学童に対し3月いっぱい限り、利用料も食費も全く無料で受け入れることにしました。

そのことを聞きつけた読売新聞・関西テレビは、取材に來られ情報発信されました。困っている方がさらに救われることになりました。

このように、たまご保育園・たまご学童教室の活動に御礼申し上げます。